

PALTEK

(JASDAQ:7587)

**2013年12月期 第3四半期
決算説明資料**

2013.11.7 (木)

- ① 2013年12月期 第3四半期
業績結果**
- ② 2013年12月期 業績予想**



1

2013年12月期 第3四半期 業績結果



2013年12月期第3四半期(累計)の総括

総 括

■ 市場環境は回復基調を継続

- 企業景況感に回復が見られ、緩やかに設備投資が回復
- 輸出は、米国向けは堅調に推移するも、新興諸国の一部では景気減速が懸念され、増勢が鈍化
- 市場としては、スマートフォン・タブレットPC等の情報端末、自動車関連、スマートフォン普及に伴う通信インフラ投資などが堅調

■ 売上高、利益はともに増加

- 【売上面】通信インフラ、医療機器、放送機器、産業機器向け等が増加
- 【利益面】半導体事業の売上が大幅に増加、利益率の高いデザインサービス(設計受託)事業の売上増加、円相場的大幅円安による仕入値引ドル建債権の評価額の増加等により見通しを上回る

PALTEK 連結業績結果（第3四半期累計）

(百万円)	2012年第3四半期		2013年第3四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	9,866	100.0%	12,453	100.0%	2,587	26.2%
売上総利益	1,590	16.1%	2,333	18.7%	743	46.7%
販管費	1,833	18.6%	1,739	14.0%	△94	△5.1%
営業利益	△243	△2.5%	594	4.8%	837	—
経常利益	△143	△1.5%	568	4.6%	712	—
四半期純利益	△103	△1.1%	326	2.6%	430	—
1株当たり四半期純利益	△9.08円	—	28.58円	—	37.66円	—

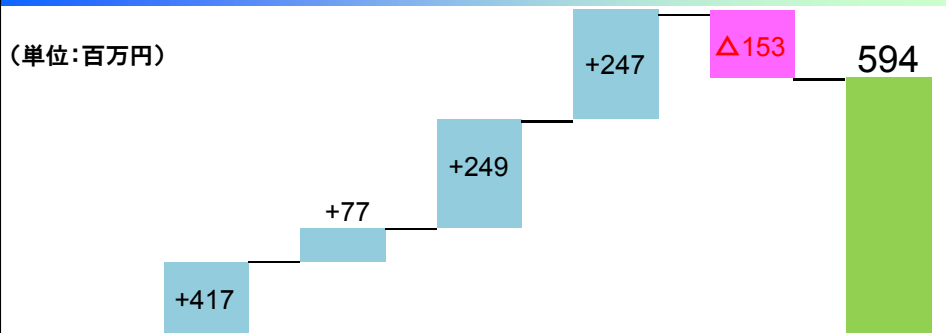
- 主な増減要因
- 売上高は、半導体事業及びデザインサービス事業がともに大幅に増加
 - 売上総利益は、売上高が増加したこと、上期において円安進行により仕入値引ドル建債権の評価額が増加したこと等により増加
 - 販管費は、2012年後半に実施したコスト削減の効果により減少

FY2013 Q3 Results Reporting

5

© 2013 PALTEK Corporation. All rights reserved.

PALTEK 営業利益の増減分析(第3四半期累計)



12Q3(累計) 営業利益 $\Delta 243$

$\Delta 243$


主な要因

- 売上総利益:売上高の増加、円安進行による仕入値引ドル建債権の評価額増加等により改善
- 販管費:PALTEKでは大幅に経費削減。グループ会社では、2012年7月に連結対象となった(株)エクスプローラと、2012年末に連結対象外となった(株)スピナカー・システムズとの差額分が増加

FY2013 Q3 Results Reporting

6

© 2013 PALTEK Corporation. All rights reserved.


事業別売上高の状況（第3四半期累計）

(百万円)	2012年第3四半期		2013年第3四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
半 導 体	9,400	95.3%	11,542	92.7%	2,142	22.8%
デ ザ イ ン サ ー ビ ス	376	3.8%	849	6.8%	473	126.0%
そ の 他	89	0.9%	61	0.5%	△28	△31.9%
売 上 高 合 計	9,866	100.0%	12,453	100.0%	2,587	26.2%

主な増減要因

- 半導体事業は、産業機器向けが大幅に増加、通信機器向けは堅調に推移
- デザインサービス事業は、医療機器、放送機器、通信機器向けが堅調に推移したこと、2012年7月に連結対象となった(株)エクスプローラの売上高が加算されたことにより大幅増

FY2013 Q3 Results Reporting

7

© 2013 PALTEK Corporation. All rights reserved.

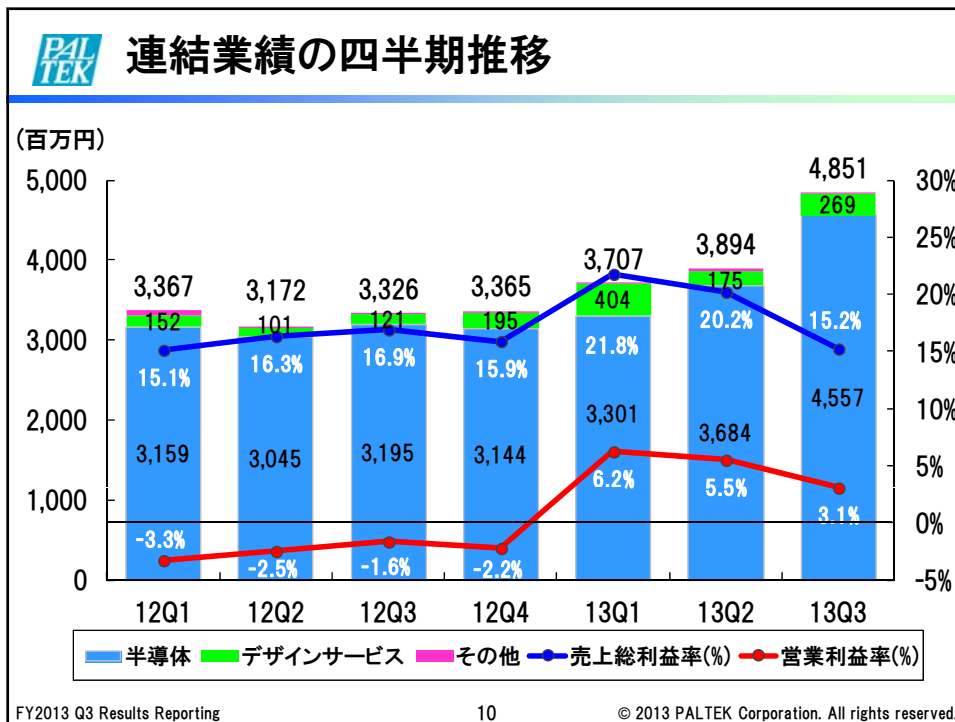
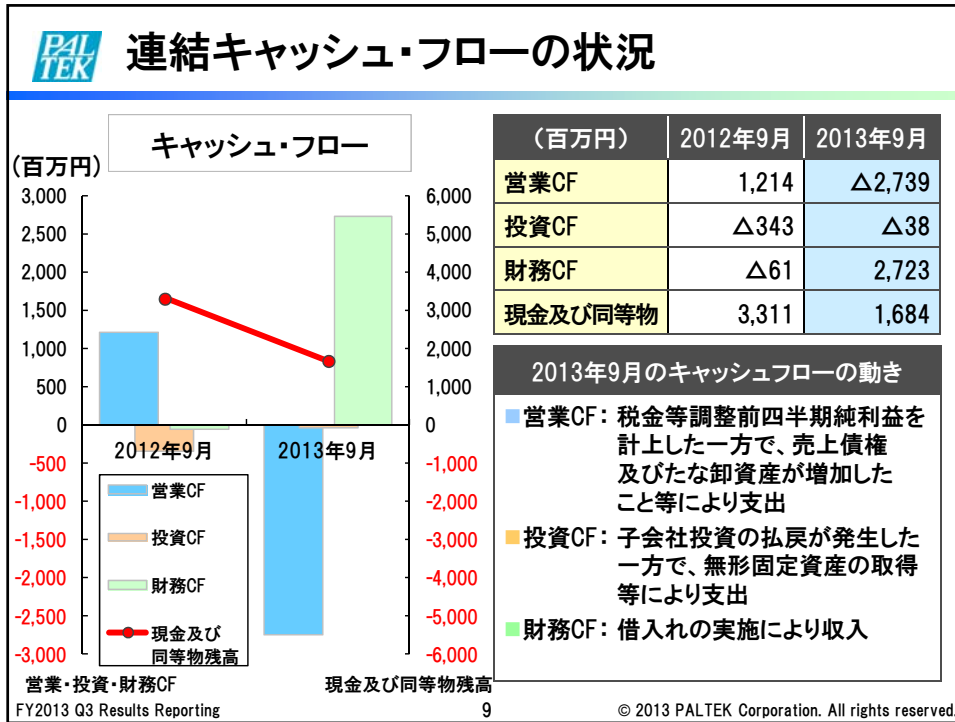

連結貸借対照表の状況

	(百万円)	2012年 期末	2013年 第3四半期	増減額	主な増減理由
資産内訳	現金及び預金	1,739	1,684	△54	
	売上債権	3,227	4,279	1,052	売上高が増加したため
	商品	1,051	2,788	1,737	売上高増加に合わせ、在庫を調達
	その他流動資産	2,617	3,225	607	未収入金が増加したため
	固定資産	630	614	△16	
資産合計		9,266	12,593	3,327	
負債純資産内訳	仕入債務	570	865	295	仕入が増加したため
	短期借入金	—	2,680	2,680	買掛金の支払いに充当するため調達
	その他流動負債	547	559	11	
	固定負債	258	331	73	
	純資産	7,889	8,156	266	
負債・純資産合計		9,266	12,593	3,327	

FY2013 Q3 Results Reporting

8

© 2013 PALTEK Corporation. All rights reserved.

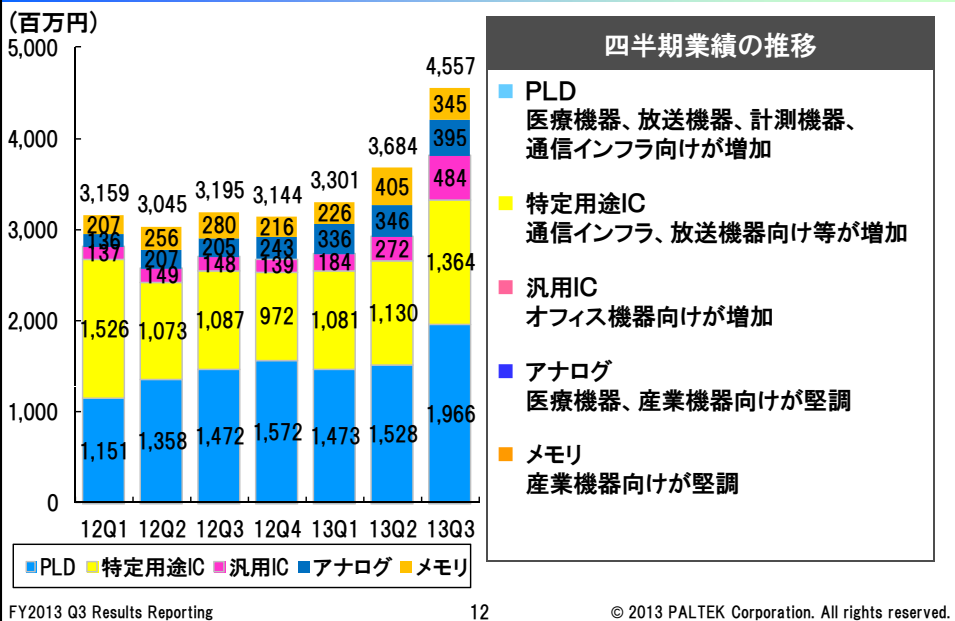


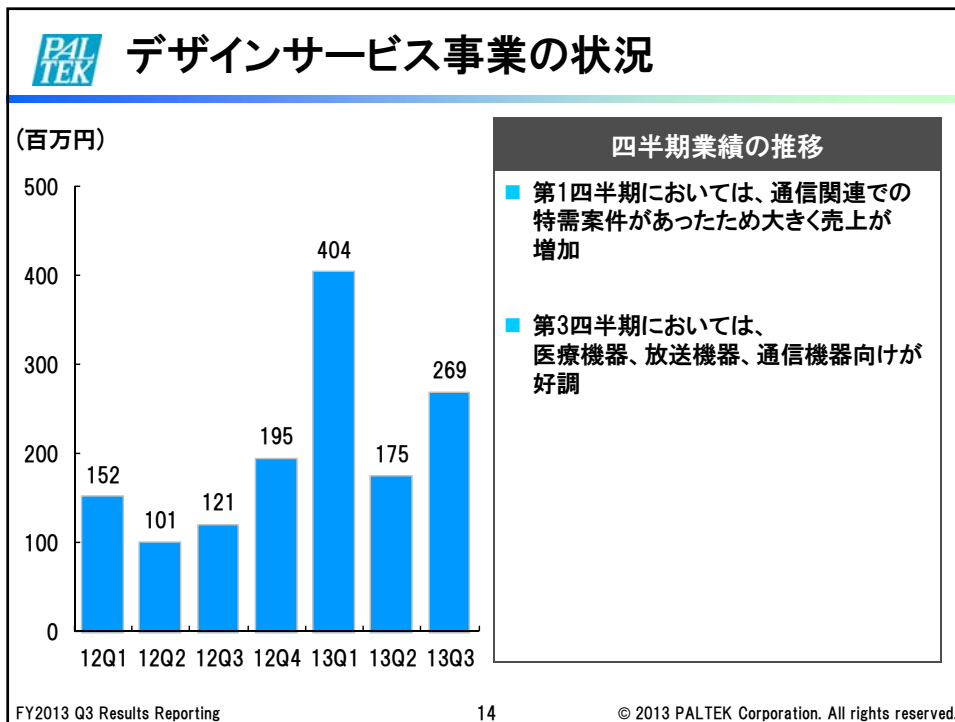
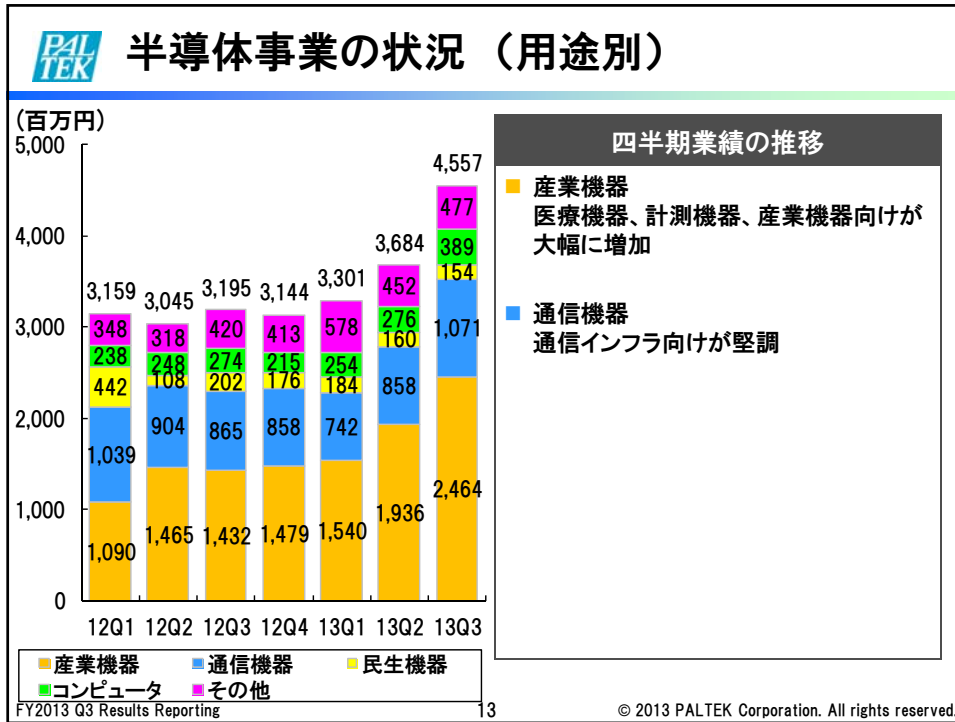
事業別の実績

FY2013 Q3 Results Reporting

© 2013 PALTEK Corporation. All rights reserved.

半導体事業の状況（製品別）







2

2013年12月期 業績見通し



2013年12月期 業績見通しについて

売上高が想定よりも増加するため、業績予想を修正

- 下期については、通信インフラ及び医療機器、放送機器等の産業機器向けが引き続き堅調に推移
- 売上高の増加に伴い、営業利益、経常利益、当期純利益を修正

2013年12月期 業績予想の修正

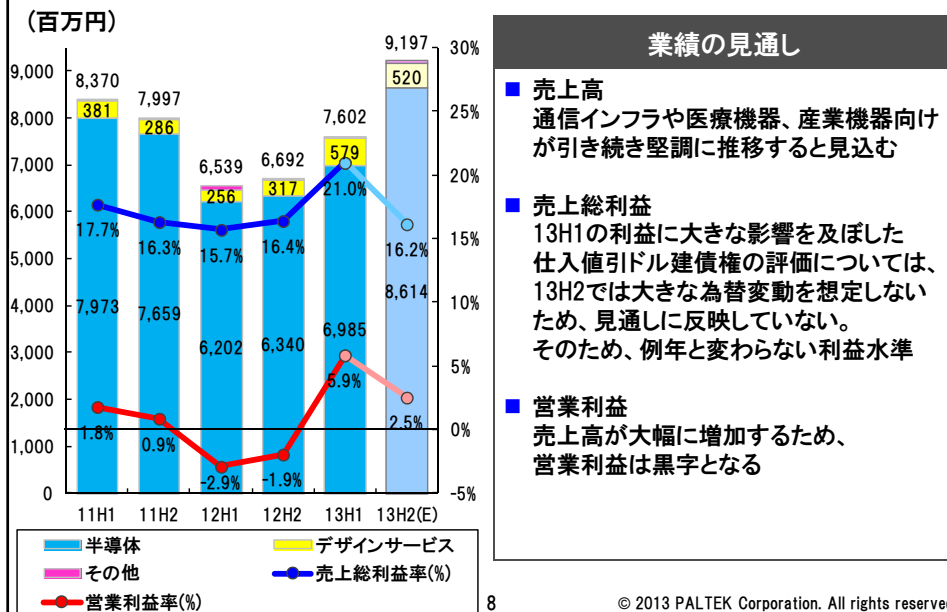
(百万円)	2013年12月期 修正予想 (7/24)			2013年12月期 修正予想 (11/7)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	7,602	8,197	15,800	7,602	9,197	16,800
売上総利益	1,594	1,355	2,950	1,594	1,485	3,080
売上総利益率	21.0%	16.5%	18.7%	21.0%	16.2%	18.3%
販管費	1,148	1,241	2,390	1,148	1,251	2,400
営業利益	445	114	560	445	234	680
営業利益率	5.9%	1.4%	3.5%	5.9%	2.5%	4.0%
経常利益	450	130	580	450	219	670
当期純利益	258	81	340	258	131	390

FY2013 Q3 Results Reporting

17

© 2013 PALTEK Corporation. All rights reserved.

業績見通しの推移



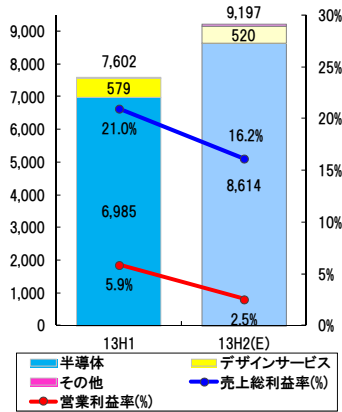
8

© 2013 PALTEK Corporation. All rights reserved.

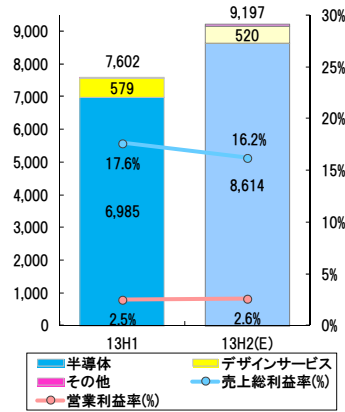
為替の影響を除いた場合の2013年業績予想数字

- 上期において、円安進行により仕入引ドル建債権の評価額が大幅に増加。原価を押し下げる要因となった
- この評価額の増加を含む為替の利益に与える影響を排除した場合、上期と下期の営業利益率は同水準

為替の影響を除かない場合



為替の影響を除いた場合



FY2013 Q3 Results Reporting

19

© 2013 PALTEK Corporation. All rights reserved.

トピックス

Inter BEE
International Broadcast Equipment Exhibition

2013年国際放送機器展に出展(11/13~15)

- 子会社である(株)エクスプローラが、NEDOのイノベーション実用化ベンチャー支援事業に採択され現在開発を進めている「UltraHD/4K対応H.265/HEVCコーデック装置」を展示
- H.264に比較して2倍と言われるH.265/HEVCの圧縮効率の効果を提示
- 放送産業はもとより、遠隔医療などの医療産業や防災・防犯監視カメラ産業等のお客様に提案



FY2013 Q3 Results Reporting

20

© 2013 PALTEK Corporation. All rights reserved.

 IRの窓口

以下の担当までお問い合わせ下さい。

柴崎 由記（総務グループ IR担当）

株式会社PALTEK

〒222-0033

横浜市港北区新横浜2-3-12 新横浜スクエアビル

TEL :045-477-2016

FAX :045-477-2012

E-mail :ir@paltek.co.jp

 本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したもので、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、本資料においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであります。

また、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- ① 国内エレクトロニクス業界の急激な景気変動や需要動向の変化
- ② 仕入先の代理店政策の見直しや再編等により取引関係の継続が困難となった場合
- ③ 不測の事態による当社グループの情報資産が流出した場合
- ④ 為替相場の急激な変動
- ⑤ 新規仕入先商品の立ち上がりの遅れが生じた場合
- ⑥ 顧客の日本国内での製品開発案件が更に海外へシフトし、当社グループの販売活動が及ばない地域へ移管された場合

参 考 資 料


2013年12月期 製品別業績予想

(百万円)	2013年12月期 修正予想 (7/24)			2013年12月期 修正予想 (11/7)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
半導体	6,985	7,630	14,615	6,985	8,614	15,600
PLD	3,002	3,228	6,230	3,002	3,898	6,900
特定用途IC	2,212	2,377	4,590	2,212	2,537	4,750
汎用IC	456	743	1,200	456	743	1,200
アナログ	682	672	1,355	682	767	1,450
メモリ	631	608	1,240	631	668	1,300
デザインサービス	579	504	1,084	579	520	1,100
その他	37	63	100	37	63	100
売上高合計	7,602	8,197	15,800	7,602	9,197	16,800
営業利益	445	114	560	445	234	680

PAL 当社の抱える為替リスク

- ① 仕入値引債権の評価額変動リスク
- ② 調達在庫のレート変動リスク
- ③ 決済時ドル調達レート変動リスク

PAL ① 値引債権の評価額変動リスクについて

- ① 値決め : 量産案件では、標準仕入価格を下回る特別価格を適用することがある
- ② 販売 : 販売時に仕入値引(ドル建債権)を受け取る。値決め時よりも円安が進行している場合、仕入値引のドル建債権の評価額が増加

→ 売上原価減少 → 利益率増加

① 値決め時 (1\$ = 80円)

仕入価格 (10\$ = 800円)	仕入値引 (ドル建債権) (6\$ = 480円)
	売上原価 (4\$ = 320円)



② 販売時(1\$ = 90円)

仕入値引 (6\$ = 540円)	売上原価減少 利益率増加
売上原価 (260円)	+60円

② 調達在庫のレート変動リスク

売上原価増加 → 利益率減少

① 値決め時 (1\$ = 80円)

利益 (2\$ = 160円)	売値 (10\$ = 800円)
売上原価 (8\$ = 640円)	

円安
進行

② 仕入⇒販売時(1\$ = 90円)

利益 80円	売上原価増加 利益率減少 -60円
売上原価 (8\$=720円)	

③ 決済時のドル調達レート変動リスク

① 仕入時 (1\$ = 80円)

仕入 (8\$ = 640円)

円安
進行

② 販売・支払時(1\$ = 90円)

仕入値引債権 (6\$=540円)	支払対象額 (2\$=100円)	CASH (2\$=180円)	決済差額 -80円
----------------------	---------------------	--------------------	--------------

PAL **TEK** 開示区分について

開示区分	内容説明
半導体事業	半導体及び関連製品の販売、技術支援
PLD	ザイリンクス社のFPGAを中心とするソリューション
特定用途IC	特定用途に特化した半導体を中心とするソリューション (例: 通信向け、インタフェース向け、携帯端末向け等)
汎用IC	NXPセミコンダクターズ、マイクロチップテクノロジー社等の汎用ICを中心とするソリューション
アナログ	リニアテクノロジー社等のアナログ半導体を中心とするソリューション
メモリ	マイクロンテクノロジー社等のメモリを中心とするソリューション
デザインサービス事業	受託開発、ODM/EMS/OEM、自社製品の販売
その他	上記のカテゴリに属さないソリューション